

読解力を身に着けるために、昨日の新聞を  
小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげてください(1)  
—新聞を毎日読むことで、すべての勉強の基本となる「読解力」が身に着き、  
学校の勉強に役に立ち、また、受験にも役に立ちます—

開倫塾

塾長 林明夫

**Q：新聞は、子どもたちの教育に役に立つのですか。**

A：(1) ①はい、とても役に立つと考えます。新聞を毎日よく読んでみると、今住んでいる町や市・区、県や都など身近な地域の出来事がよくわかります。

②同時に、日本やアジア、世界の各地のどこで、いつ、何が、だれによって、なぜ、どのように起きているかがよくわかるようになります。

③新聞の記事は、5W1H (Where、When、What、Who、Why、How) で書かれているからです。

(2) ①政治や経済、社会だけではなく、スポーツや文化、医療や福祉、健康、科学技術、企業や NPO・NGO 活動についても、最先端の動きがとてもわかりやすい形で紹介されています。人生相談や投書欄、文芸欄、囲碁・将棋・料理・教育欄も充実しています。

②現代社会の抱える課題についても、新聞社としての考えが、社説や論説、解説やコラムでわかりやすく示されています。

③ AI や IoT、5G などの最先端技術、高度最先端医療、超少子高齢化、SDGs などを最も熱心に取り上げているのは新聞です。

(3) ①このように、新聞は、教育にとっても極めて大切であると考えます。そこで、開倫塾は 1979 年の創業以来、塾生・保護者・地域社会の皆様に、「新聞を毎日、腰を落ち着けて 30 分間、1 面のトップ記事から社会面までなめるようにじっくり読むこと」を、毎年折に触れて、何回も、何回もお奨めし、また、お願いして、今年で 40 年になります。

②英語検定準 2 級、または、2 級合格者には、英字新聞を毎日 1 時間読み、英語の「読解力」を身に着けることをお奨めしています。

③日本の英語学習者に決定的に不足しているのは、英語の文章に触れる絶対量だからです。日本人が難しい内容の話を英語で聞いてよく理解できないのは、英語を読む絶対量が極端に不足しているからです。「読んでわからないことは、聞いてもわからない」からです。英語を読む絶対量を確実に増やすには、英語検定準 2 級、または、2 級を取得したら、英字新聞を毎日 1 時間以上読み続けることです。

Q：結構、熱心なのですね。なぜですか。

A：(1) ①英字新聞を含め、新聞を毎日、腰を落ち着けて1面からじっくり読む習慣が少しずつでも身に着いてくるとどうなるか。

②世の中のことがよくわかるようになります。

③同時に、「自分の力でものごとを考えること」ができるようになります。「自分で考える力」が身に着くのが新聞です。英字新聞を毎日読み続けると、世界のことがもっとわかるようになり、また、英語で考える(Think in English)ことができるようになります。

(2) この「自分で考える力」の中には、「これは、ちょっとおかしいのではないか」と、ものごとを冷静・沈着に見直す「批判的思考能力」も含まれます。

(3) ①このように、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読んで身に着くのは、「自分で考える力」と「批判的思考能力」です。

②「学力」を「主体的に学ぶ力」と考えると、新聞は、「主体的に学ぶ力」を身に着ける上で極めて重要な役割を果たします。

③選挙権年齢が20歳から18歳になり、国家をどのようにするかを決定する「主権者としての教育」が叫ばれています。「主権者教育」の最良の教材は、新聞です。

Q：なるほど。それではお聞きします。新聞は、学校の勉強・定期テストや受験勉強・入試に役に立ちますか。

A：(1) オッ、ズバツとききましたね。それではお答えします。

①新聞は、学校の勉強や定期テスト対策に役に立ちます。

②業者模試、入試対策などの受験勉強にも役に立ちます。

(2) なぜなら、新聞を読んで身に着くのは、学校の勉強や定期テスト、受験勉強や入試に絶対に必要な「読解力」だからです。

①「読解力」は、すべての教科の基本です。

②学校の定期テストや入試などすべての試験では、問題文や設問、選択肢などを正確に、また、論理的、分析的に読み込み、正解を導き出す「読解力」が必要です。教科書や問題集、様々な教材を理解するのも、「読解力」は不可欠です。授業中に取ったノートも、「読解力」がなければ理解できません。

③この「読解力」を身に着けるのに、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読むことは極めて効果的です。

(3) ①最近の入試には「PISA型」という、文章や資料・データを文脈を追いながら論理的、分析的に読み解く新しい問題が、中学入試から大学入試まで多くの教科で頻出しています。

\*学校の定期テスト・実力試験、業者模試も「PISA型」が激増しています。

②これに備えるには、新聞を毎日じっくり読み込むことが最も効果的です。

③ですから、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読むことは、定期テスト対策、業者模試対策、入試対策、つまり、受験勉強そのものといえます。そこで、私立中学校入試から難関大学入試まですべての受験生には、入試当日まで、新聞を毎日30分じっくりお読みになることをお奨めしているのです。

④難関校を受験する受験生は、英字新聞も入試当日まで手放してはなりません。英字新聞を読むこと自体が、受験勉強です。

Q : 「読解力」を身に着けるために、新聞を毎日読む習慣は欠かせないのですか。

A : (1) ①その通りです。ですから、ご家庭で購読している昨日の新聞をお子様にプレゼントしてあげてください。

②「読解力」を身に着けるには、新聞に加えて、辞書と読書も必要不可欠です。

③ですから、難関校の受験に耐えられるレベルの「読解力」を身に着けるために、開倫塾では創業以来 40 年間、一貫して「辞書・新聞・読書の最大活用」をお奨めしています。

(2) ①せっかくですので、辞書と読書のお話もさせていただきます。

②「読解力」で最も大切なのは、身に着けていることば（語句）の多さです。

③身に着けていることばの数を増やすのに最も役に立つのが、辞書の活用です。

(3) ①辞書とは、国語辞典、漢字（漢和）辞典、英和辞典、英英辞典などです。

②辞書の活用とは、辞書を自分のものとして使いこなすことです。

③辞書は「武士の刀」と同じです。持っていなければ勝負になりません。ですから、辞書はいつでも持ち歩き、手放さないことです。

\* 電子辞書でも OK ですが、落ちていて勉強するときは紙の辞書をパツ、パツ、パツとどんどん引くことをお奨めします。

Q : 辞書ですか。辞書をどのように用いれば、身に着けていることばの数、語彙（ごい）数が確実に増えますか。

A : (1) ①知っていることば・身に着けていることば（語句）の数が少ないと、学校の先生の授業はよく理解できません。

②教科書や教材、参考書、先生が黒板に書く内容もよく理解できません。

③まして、定期テストや業者模試、入試の問題文や設問、選択肢の内容を正確に理解し、正解を導くことはできません。

(2) ①ではどうしたらよいか。勉強していて意味のよくわからないことば（語句）があったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べることです。

②辞書で調べた意味は、頑張って、その場で覚える。書き方も覚える。

③同時に、必ず「意味調べノート」か「カード」に書き写す。

(3) この後が大切です。

①書き写した「意味調べノート」や「カード」は、1 ページ目、1 枚目から繰り返し「声を出して」読み直し、学び直してすべて覚える。つまり、「音読練習」ですね。

②漢字と英語は、意味を正確に覚えると同時に、すべて正確に書けるまで「書き取り練習」をする。漢字は「書き順」も正確に身に着ける。

③ですから、漢字（漢和）辞典も必要です。

(4) ① 1 日 10 回辞書で調べる。1 か月で 300 回、1 年で 3650 回、3 年で 1 万回辞書を引き、自分の身に着けていることばの数を自分の力で増やす。

②「ことばは力」、「身に着けたことばの数は力」、「語彙数は力」です。「語彙力とは、身に着けていることばの総数」です。

③「辞書を用いる習慣」を身に着け、ことばの数、語彙数を増やすこと。これが、「読解力」を身に着ける第 1 歩です。

Q : 「読解力」を身に着ける3番目は、読書でしたね。それではお聞きします。何をどのように読んだらよいのですか。

A : (1) ①教科書、学校の図書室や近くの公共図書館（市立・町立・区立・県立・都立・国立などの図書館を、「公共図書館」といいます）で紹介されている本・学校の先生から紹介された本がお奨めです。

②これぞという本は、腰を落ち着けて一語一語ゆっくり読む。作者(著者)と「時空を超えた対話」をするような気持ちで、じっくり読むことです。

③1日30分、本をゆっくり読む。このようなじっくり型の読書が、「読解力」を確実に身に着けるのに役に立ちます。

(2) ①「うん、なるほど。そうか、これはこのようなことだったのか」

②「作者の考えはこうなのか」

③「作者のいいたいことは何だろうか」などと考えながら読む、じっくり型の読書をお奨めします。

(3) ①一度読んだ本は何回も読むことも、「読解力」を身に着けるのに役に立ちます。

②大切な本は5～6回読むことです。「本は6回読むこと」をお奨めします。

③受験勉強の期間こそ、1日30分読書をすることで、「読解力」と同時に「読書の習慣」も身に着けてください。

Q : 各教科の勉強と、辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けることとの関係を、もう少しわかりやすく説明してください。

A : (1) 病気にかかったときには、病院に行って診断していただき、必要な治療（手術や薬の処方）をしていただくと同時に、十分な休養・栄養を取り、適切な運動などをすることが、回復のために必要です。せっかく病院で検査・診断・治療をしていただいたのに、暴飲・暴食をしたり、夜も寝ないで遊びほうけたり、大人であればアルコールやたばこをやめなかったりしたら、病気の回復は期待できません。

(2) これと同じで、いくら教科の内容のみを勉強しても、「読解力」を身に着けることを怠ると、教科書や教材、試験問題を正確に最後まで読み解くことはできないため、学校の授業を理解すること・定期テストや入試でよい点数を取ることがなかなか難しいといえます。

(3) 辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けることは、病気のときの十分な睡眠・栄養・運動などと全く同じで大切です。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 保護者の皆様にお願ひがあります。それは、昨日の新聞を、小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(2) 新聞を購読なさっていない場合は、可能であれば新聞を購読していただき、保護者の皆様が読み終えた昨日の新聞を、お子様にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(3) 学校の図書室や公共図書館で新聞を毎日読むことも、ご家庭でご指導ください。併せて、図書館で辞書や読書に親しむことも家庭教育の一環としてご指導ください。

どうかよろしくお願ひいたします。